

## 三峰山 (1235.4m) 北尾根 から 仏来山 (848m) 西尾根ルート

“バリルートを狙って” の巻

山行日 2012 年 2 月 4 日

参加者 北岡（報告）、伊東

赤坂山へスノーシューハイクに行くつもりが前日までの大雪で無理かもしれないと思い急ぎょ計画変更。そこで比較的積雪の少なさそうな三峰山へ霧氷でも見に行こうかということになった。三峰山へはもう何度も登っており今回はちょっと違ったところからアプローチしようと地図を見ていると変わった山名が目にとまった。

「仏来山」なんて読むんだろう。「ぶっきやま」「ぶつくるやま」?? わからないので取り敢えず「ぶつらいさん」。

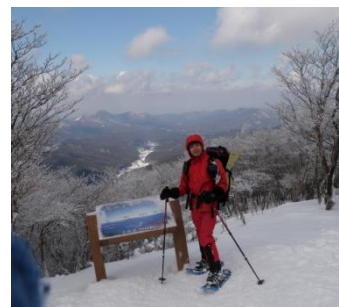
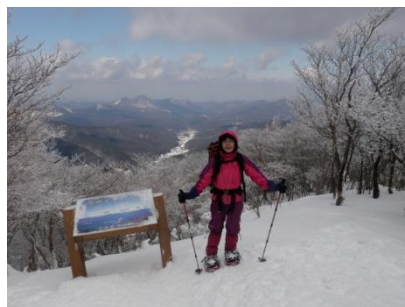
三峰山北尾根にその山はあった。仏来山の山頂から「みつえ青少年旅行村」の近くまで伸びている尾根が使いそうだった。地図には登山道が記されていない。積雪量によるがこの程度の標高ではそれほどラッセルもないだろう。それよりも雪の下の本シュが邪魔で登れるかどうか心配だった。



早速三峰山までの時間計算。余裕をみて登りは標高差に 0.4 倍を、下りは 0.15 倍を。つまり標高差 100m を登りでは 40 分（無雪期では通常 20 分程度）、下りでは 15 分かかるとして計算すると累積では登り 882m、下り 202m。三峰山頂まで約 6 時間 30 分となった。三峰からは一般ルートで下山するとして 1 時間 30 分から 2 時間。休憩込みで 10 時間の行程になる。早朝発で日没ギリギリ

での下山か。山行直前まで悩んだ末、仏来山ルートを下山に使うことにした。これだと休憩込みで 8 時間足らずで周回できる。

山行当日の天気予報は曇りで午後からは晴れ。道路の凍結による渋滞で少し出発が遅れてしまった。旅行村の駐車場から新道峠に向かう。今朝方までに新しく積もった雪で丸みを帯びたたくさんの足跡があった。今日は自分たちが一番乗りだ。林道を歩いていくうちに細かくて密度の濃い雪がしきりに降るようになってきた。風もある。手先がじんじんとしびれてきた。青空を期待してやってきたのに気分が萎えてきた。一般ルートで下山して



帰ろうか・・・。年末の氷ノ山、正月の焼岳とアカンダナ山に続いて今日もまた目的の山頂を踏めずに帰るのか。撤退癖がついてしまったか。

新道峠で稜線に出ると時折青空が顔を出す。風も収まっている。手先も正直なもので暖かくなってきた。小さな青空の中で霧氷が美しい。この先の八丁平はもっとすごい景色だよと三峰山が今回初めてという相棒に自慢気に話した。三峰山頂から八丁平へ。そこには想像もしなかった景色が広がっていた。霧氷が全くない。気温が高かったのか。そういえばいつもは指先が切れるほど冷たいのに今日は暖かく感じたくらいだったからなあ。相棒に期待を持たせて申し訳ない。

再び三峰山頂に戻りいよいよ今回のメインイベント、北尾根に突入である。踏み跡はない。すぐに激下りになる。スノーシューがまるでスキー板のような感じで深雪



霧氷のない八丁平



のなかを滑っていく。もう後戻りはできない。こんな深雪の急斜面を二人だけでは登り返せない。ブッシュで難儀しようが何としても無事下山しなければいけない。絶対にルートミスは許されない。そんな緊張感も束の間で「岳の洞山」へと続く尾根筋は快適な雪山歩きだった。踏み跡のない尾根筋に自分たちだけのトレースを付けて歩くのは実に気持ちがいい。

積雪も少なくなりスノーシューからアイゼンに履き替える。北尾根上のルートはあちこちにテープが付いているので間違えることもなさそうだがそれでも分岐では GPS で確認しながら下った。高度 1000m くらいから木が多くなってくる。高度 850m くらいからは木の根が貼り出してきて歩きにくくなって来る。前方には山頂部を真っ白に化粧した大洞山が見えている。

やがて樹の間越しに大きな山が見えてきた。あれが目的の仏来山だ。そして左のほうへは緩やかに高度を下げる西尾根が張り出している。あれを下るのか。高度 765m のツキヤタワから一直線に登る。気持ちは急くが身体はついてこない。息切れしながらもたどり着いた山頂は展望のない植林の中。それでも「仏様が来ら



れる山」という意味だろうかこの大変ありがたい山名を冠した山に、この時期誰も登ってこないだろう山に立てたことに満足、満足。用意してきた山名板を取り付けて記念撮影。(木を痛めないように簡単に外れるようにしてきました。)

西尾根に目を向ける。まっすぐに切り開かれた歩きやすそうな尾根だ。多分杣道が走っているのだろう。オレンジ色に染まり沈みゆく陽に向かって歩く。所々馬酔木で行く手を拒まれる。あと少しで今回の山行が終わる。雪の下の木根にアイゼンを引っ掛けて怪我をせぬよう気を抜かずに歩こう。夕暮れが迫ってきている。そこで標高点 797m から最短で弓木谷(ユムギタニ)林道に降りるルートに変更。旅行村に着いたときには辺りに車もなく帰宅準備をしているうちに日没を迎えた。

今回は誰のコピーでもなく自分で地形図からコースを考えて実行、計画より少し時間は多くかかったが完歩出来たことに大満足である。また、こんな山行に付き合ってくれるいつもの相棒にも感謝である。(北岡)



#### コースタイム

みつえ青少年旅行村発 8:54

新道峠 11:02

三峰山頂 12:08

八丁平 12:19~12:59

三峰山頂から下山開始 13:09

P959 14:20

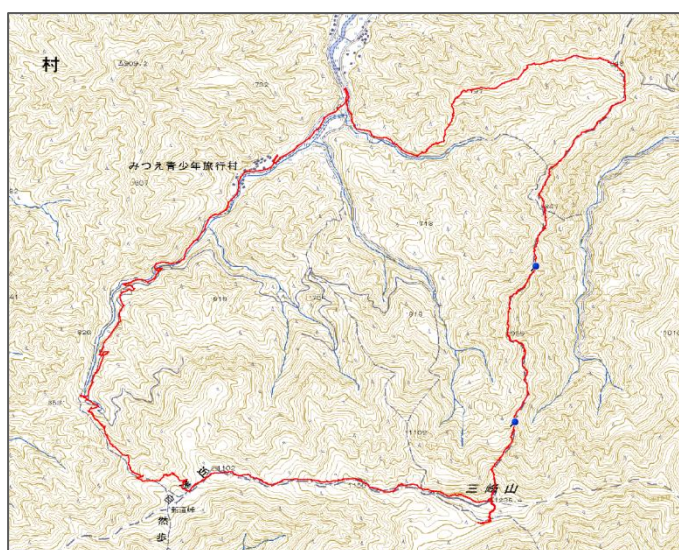
P847 15:04

P848 (仏来山) 16:00~16:19

P797 16:43

弓木谷林道の高度 585m 17:14

みつえ青少年旅行村着 17:41



#### [マゼンタの一口感想]

霧氷で有名な高見山と三峰山。高見山には色んなルートから幾度か登っているが、三峰

山はなぜか未踏であった。相棒は幾度か登っており八丁平の霧氷は「この世のものとは思えない美しさ」だという。

先週の砥峰高原に続き今週もスノーシューで楽勝と思っていたところに相棒から送られてきたルート図に「ええっ？！・・・」目的が三峰山より仏来山になっているではないか。仏来山の山名板まで作ったという。何としても山名板を取付けに行かなければ・・・。

早速地形図で確認すると、三峰山直下と所々、等高線が密。雪の状態もわからず、「これを登るのー？！」 相棒も所要時間に不安があったらしく、新道ルートから登り、北尾根～仏来山～西尾根を下ろうということになり少しはホッ。

三峰山直下はかなりの激下りで滑るわ、滑るわで、何度か尻セード状態で、先が思いやられると思っていたが、その後はアップダウンはあるものの、林業の杣道か？ 整備された道が続く。所々 風で雪が飛ばされたのか、地肌が見えたり、薄く積もった雪の下に木の根っこが隠れていたり、スノーシューからアイゼンに履き替えた辺りから慎重に歩く。相棒から、下りはもっと足を高く上げたほうがいいというアドバイスがあり、なるほど木の根っこに引っ掛かることがなく、歩きやすい。最後の激下りを慎重に下り、無事 林道に立った時の達成感は半端じゃなかった。

八丁平の素晴らしいといわれる霧氷を見ることは出来なかったが、仏来山に山名板を取付けることが出来、大満足の山行であった。

〈反省点〉

三峰山から下る時点で、アイゼンに履き替えたほうが、直下の激下りをもう少し楽に下れたか？ なかなか むずかしい選択である。

伊東